

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971000011		
法人名	社会福祉法人 愛寿会		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	山梨県北杜市小荒間1293		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年10月6日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域・ご家族との交流に心がけ法人の協力を得ながら外に出る機会を多く持ち入居者の方に外部の空気に触れ、生活に張り合いが持てるよう支援を行っており、地域の保育園、高校生、地域住民との交流を持ち、又、家族会、小海線などに乗って遠出を楽しみを持つことができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は南アルプスが目の前に見え、自然豊かな広大な敷地に法人の建物が建ち一角にグループホーム「やすらぎ」として位置している。運営する法人は、地域において必要な福祉サービスを行い、様々な高齢者、障害者を総合的に提供できるように援助を行っている。利用者の集まる食堂兼フロアのテーブルには、職員が持って来た季節の花が飾っており、花の名前を忘れがちな利用者と一緒に確かめ合い楽しんでいる。管理者始め職員は、理念の「やすらぎ」が目指すものに沿って一人ひとりを大切に、その人らしく、いきいきと過ごせ、地域の人々や素晴らしい自然とふれあいながら暮らしていける様に日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームやすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ワーカー室・廊下に理念を提示し、それに基づいたサービス提供に努めている。	法人の理念とは別にグループホーム「やすらぎ」がめざす、5つの項目を事業所内に提示し、利用者一人ひとりを大切に生き生きと地域の人々と触れ合いながら暮らしていけるよう、管理者と職員は、日々話し合い共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会には加入していないが、地域の公民館祭り・保育園の運動会・クリスマス会などへの招待をうけ地域との交流が保たれている。	日頃からの関わりの中で地域から情報が届き、保育園の運動会への参加や、公民館祭りでは、利用者が手話で歌ったり、文化展では、「やすらぎ」のコーナーがあり、日頃作った作品を展示したりしている。また、夏祭りには、子ども神輿が事業所に立ち寄って利用者も楽しんでいる。民生委員が地域とのつながりを取り計らっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内の利用者との交流を行っており気軽に来居していただけるよう、取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催しており、家族会代表、地区民生委員、市職員が参加し実績報告、行事報告を行い、ホーム運営についてアドバイスを受けている。	基本的には第2火曜日の午前中開催し、利用者の近況報告・行事・事業実績報告等を行っている。市の担当者から情報を出してもらい、その中の意見をサービスの向上につなげている。会議に参加できなかった家族には、議事録を郵送して情報の周知を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例の入居者・入退居時についての相談など情報交換の場を設けている。	市の担当者には、入居についての報告や事故の際の相談に行き、事業所の実態を知ってもらい情報を共有している。また、困難事例の際には、相談できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておらず、玄関チャイムを設置してケアを工夫してとりにくんでいる。	併設の事業所に身体拘束委員会があり情報を得ている。玄関は自由に入り出るのでチャイムを設置しているが、来客時には利用者が職員に伝えてくれる相乗効果もある。スピーチロックについては職員間で注意したり、連絡帳を活用している。利用者が一人で外出している姿を見かけた時には、電話をしてもらえ地域との関係を築いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の虐待防止委員会での内容を、ホームへ持ち帰り又報道等を見て話し合いをおこないテーマとして取り上げている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設の事業所との学習会で知識を共有して活用できるように取り組んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約申込時、入居の意思確認時、事前訪問時等入居前何度も家族と話し合い、不安の解消に努め、入居後も面接時の他毎月のお便りの中で状況報告を行っている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームやすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時・家族会等に「ご意見・要望を聞くよう声をかけ話しやすい状況をつくっている。また入居時に「苦情・相談の窓口担当者を明記してある文書を説明している。	利用者の担当職員が決まっているので、日常関わる中から要望等を聞いている。家族の意見では、「やすらぎ」通信をパソコンより手書きの方が暖か味があって良いとの意見があった。法人全体として苦情窓口について流れの一覧表があり、入居時に説明している。家族への説明については、管理者が行い情報の混乱を防ぎそれらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時各人意見を出しやすいよう話し合いの場を設けており・連絡帳での活用を生かし職員の連携を保っている。	毎日夕方行われるミーティング時、朝は引継ぎ時に職員の意見を聞くようにして、日頃から管理者に意見を言い易い関係にある。小海線の車両を借り切って旅行する折に、利用者が歌うのに必要なポータブルワイヤレスアンプがあると良いとの意見で購入しており、職員の意見が反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得奨励手当、外部より講師を招いて研修会を行ったり努力に報いる年度末手当などがある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各研究委員会に配属しており、それをホームに持ち帰り研修報告を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修会に参加している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後本人家族と話し合いを持ち、コミュニケーションをとっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まで何回か面接または家族の相談に乗りやすいよう連絡を密に行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況について、入居前のサービスの担当者とも連絡を取り合い、その方にとってベストの状況はなにかを話し合っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を最優先に、それぞれの人生経験を活かせる働き方に努め、特に若い職員は学ぶことが多い。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームやすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前より多くの職員に係るよう心がけ、家族の情報も共有し、ともに喜んだり心配できるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方が見え・家庭の延長での様な雰囲気が保てるような場所の提供を行っている。又地域社会との交流が継続できるような支援を行っている。	毎週土曜日に家族の送迎により、以前住んでいた地域のゲートボールに参加する利用者や公民館祭りに参加する利用者がいる。全国に知人がいてネットワークを作って順番で利用者を訪ねて来る等、一人ひとりの生活習慣を尊重し関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を職員間の情報交換により把握し、理解ある仲間となれるよう心掛けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され特養入居され永眠された方にはご焼香に行ったり、特養入所された方には、面会に出かけたり家族もやすらぎへ立ち寄ってくださる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し・その方に合った暮らし方を見い出して支援に心がけている。	入居時のアセスメントのみならず、日頃からの係わりの中で把握し、本人が好きな様に生活出来る支援をしている。把握困難な利用者には、日常の表情や行動から把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族からの情報収集により生活歴を把握し、日常のサービス提供のきっかけや指針としている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルの定期的測定や生活状況の記録により、職員間で話し合ったり、共通理解できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でその方のアセスメントをしっかりと行い・入居者が自立的な生活を送れる様プランに反映するよう心掛けている。	基本的には6か月に1回見直しをし、管理者がアセスメントしながら、職員と話し合い介護計画を作成し家族に報告している。3か月に1回モニタリングを行い、プランに沿って毎日ケース記録を作っている。アセスメントの変更時には、管理者が作成して家族に説明し、同意を得てからプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当番が全員の個別記録を行い、週毎にそれぞれの担当者がまとめ、急変時や見直し時に活用している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームやすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事、外出時等事業所職員との交流を行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの交流はできるだけ自由に、地元の保育園、地域との交流を密に行う様に心がけている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1度の嘱託医の往診時細かい報告を行い・受診要請時には病院医療連携室と連絡を取りご家族に受診をお願いし病院での説明は職員が付き添い対応している。ご家族が詳しい状況を把握している場合は・文書を持参していただき病院より返事を頂いている。	入居時にかかりつけ医については事業所の嘱託医になる事を説明し承諾を得ている。利用者に変化が見られた時には、嘱託医に相談し病院の医療連携室と予約を取り受診が円滑に行くように、職員が同行して状況を説明している。病院に来た家族に引継ぎお互いに情報を共有し適切な医療が受けられる様に支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化も医師に相談、報告し必ず看護師に見てもらい状況により医師と連絡を取っている。医務の看護師は入居者の状況について、職員と同じように把握している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合、病院の相談員が細目に連絡してくださり、状況報告、退院の調整、退院後は病院の各担当者(リハビリ担当)と連絡をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期の在り方について嘱託医・ご家族と話し合いを行うケースが出てきつつある。その場合ホームでの生活継続に添えるよう支援をおこなってゆきたいと考えている。	看取り介護計画確認書で、家族に看取りの説明を同意を得ている。看取りを希望していた家族もいたが、最終的には医療行為が必要となる病院での看取りになった利用者もいる。ケースとしてはまだないが、受け入れる医療連携体制は整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルをわかりやすいところに準備し、職員間で常に確認し合っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月法人で行う防災委員会に参加し・防災訓練を常日頃行っている。年1回は地域の消防団の協力を得て法人全体の防災訓練を行っている。水害についての訓練も行っている	月1回行われる法人の防災委員会に管理者が出席し、防災について協議した内容に沿って訓練を行っている。実施内容・評価・反省・感想を記録簿に残し今後につなげている。年1回消火器の取扱い・避難誘導訓練を地域の消防署と一緒に、日頃から職員は、利用者が安全に避難できる方法を身につけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの仕方については・常に職員間で認識しお互い気が付いた時には注意しながら支援にあたっている。個人情報についてはワーカー室で管理行っている。	利用者の生活歴や性格を把握し自己決定し易い言葉かけをし、職員間で気づいた時には、注意をしたり連絡ノートでお互いに確認し合っている。利用者の部屋に入る時は、声掛け、ノックをして誇りやプライバシーを損ねないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームやすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けと傾聴に努め、本人の希望が活かせる支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の暮らしぶり、性格を把握し強制することなく本人の過ごしやすいよう生活が送れる様支援に心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ1か月に一度出かけ、出かけられない方については出張してもらい散髪していただいている。外出時にはおしゃれについて助言を行い支援行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の新鮮な食材を提供し個人の好きなメニューを聞きながら献立に反映し役割分担を行い準備・片づけなどを行っている	利用者の好みを聞きながら職員が献立を作り、毎日の食事も職員が交代で温かい食事づくりをしている。利用者と一緒にギョー作りまた、おはぎ・お盆や正月の行事食を取り入れている。2か月に1回は、希望に沿って外食で楽しんでいる。季節の花が飾ってある同じテーブルで、職員も一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取の適量については、本人の希望に添って体重の増減、体調などを話し合い調節している。メニューについては職員が一週間交代で作成しそれについて話し合いを行い職員同士でアドバイスを出している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員歯磨きを行っている。週2回義歯を消毒液につけて清潔保持に努めている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い排泄パターンを把握し・その方にあつた声掛け誘導介助を行っている	利用者一人ひとりの力や排泄のパターンを全職員が把握し、トイレ誘導や見守りの支援をしている。また、リハビリパンツからトイレ誘導をして布パンツになり、身体機能の向上につながる自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録につけ把握しながら、便秘時には水分補強、就寝時間腹部マッサージ等話し合いながら実施している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	15:00~18:00まで職員1名が見守り介助し・いつでも入浴できる体制をとっている。	基本的には、週4回午後3時から6時迄を入浴時間としているが、一番風呂希望の利用者には、希望に合わせて対応している。バラ園から摘んで来た花びらでのバラ風呂やゆず湯を楽しんでいる。広い浴槽は、利用者の希望で仕切りを付け家庭的な浴槽にする工夫をし、くつろいだ気分で入浴できるよう支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームやすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も各人に合ったものとなるよう希望に沿って対応している。夜間2時間毎に巡視、確認、訴えに対応できる状況を作っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については一覧表を作り、職員間で知識が共有できるようにし、配薬と、飲み込み時の確認を別の職員が確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントと日々の会話を通して、これまでの経験が活かせるレクリエーションの設定を行ったり、役割分担したりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リハビリを兼ね敷地内の散歩は日課とし、季節に応じた外出を行ったり家族会でのバス旅行などをおこない外出の機会を多く持てるような支援に心がけている。	日常的にケアプランに沿って利用者の「筋力をつける」を兼ねて、ゴミ捨てをしながら事業所の周りが広いので散歩をしている。中庭で洗濯物を干したり夕涼みをし日々の生活で支援している。年2回利用者・家族会・職員・地域のボランティアと一緒に春は大型バス旅行・冬は小海線の車両を貸切で家族と共に楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にあると落ち着く方(金額はわからない)職員が管理している方がほとんどであるが、買い物に行き自由に使える体制をとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を掛けたり、手紙の投函の支援は行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるようテーブルには常に花を飾ることに心がけて季節を忘れないような配慮を行っている。	玄関には、利用者の立派な書道作品が飾ってあったり、幾つかのソファや利用者が外出する時に被る帽子が掛けてあり家庭的な雰囲気である。食堂兼フロアも窓が広く季節感がある。利用者が趣味の事を出来るテーブルがあり、文化祭等の作品を作る場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを置き、好みに利用できるようにしている。テーブル等何か所かに置き、集える空間を作っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時・使い慣れた私物を持参していただき、ご家族と飾り付けて居心地良く過ごせるような工夫をしていただいている。	ベッド・整理棚が備え付けで、暖房は、壁に取り付け天井にある水循環型の身体に優しい物である。家族が用意する物としてカーテンは、防煙使用のものとなっている。テレビ・お洒落な椅子・家族写真・好みの絵が飾ってあり、その人らしい居心地の良い居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置の工夫により、手すりなどを活用しやすくしたり、作業台の高さ等工夫している。			